

No 1405, BASTOS, 25 de MARÇO de 1974, O P... ASSISTENTE, Rua... SÃO PAULO A.P.

バスターズ週報

第1405号
昭和四十九年三月二十五日
発行所 日野行
Diyetar
Koiti Mori
Redator
Shim Oda
Rua Pres.
Vargas, 188
C. Post. 112
Fone. 40.
BASTOS
C. P.
Anual
Cr. #
40.00
Adiant.

断 崩 13 小野田元少尉の精神力

近頃の新聞で最も吾々古参の日系人の胸を打ったものは、小野田元少尉ルパング島で救出の件であろう。去る二月二十日、日本人旅行者鈴木紐文氏がルパング島の山嶽地帯で天幕を張っていた時、銃を構えた異様な人物に遭遇したが、その人が小野田寛郎少尉であった。

鈴木氏は小野田少尉の写真を撮って帰国し、和歌山県海南市の小野田氏実家へ送ったところ、実家の人々によって寛郎少尉であることが確認されたことから、急速に救出運動が始まった。

昨年日比合同の大がかりな救出隊が十数日もかかって出獄地帯を隔なく拡声器を用いたり、アドバルーンを上げたりして捜しつづけたが遂に反響がなく、捜査を打ち切ったが、その時参加していた、リベロン、ビレス在任の格闘士へ寛郎氏の兄が無念の涙をのんで痛恨し、後日救助捜査の日記をパウリスタ新聞に連載したことがあった。

あの日記を読んで、捜査隊の人々の苦勞を知り、困難な事情を熟知することが出来た。兄、格闘士の血涙の記事を見て、胸を打たれた人は、おそろくあるまい。二十人以上の人々が殺戮に付れて谷川を涉り、人跡未踏の山地を歩きまわると、小野田氏に、どこに姿をひそめたものか、影も見せなかつた。

それは、兄格闘士が指摘するように、フライリッピン兵が各自銃器を持っているからだろう。拡声器の声は、幾たびも聞かされたにちがいない。そして自分まで殺さねばならぬことを覚悟したにちがいない。しかし、終戦の事実を直接に耳にしていない寛郎氏には「救出」ではなく「捕縛」と感じただのであろう。今になって彼はつかまつってどうするものか。投降な日本軍人として出来るものか。死んでもつかまつらんぞと、全身の勇を以ってかくれていたにちがいない。

こんどの救出隊は、最初の発見者鈴木紀文氏(主声)と、寛郎氏の上宮元陸軍少佐谷口義美氏(主声)の二人だけでルパング島山嶽地帯ワカヤマ、ポイントで野営し、寛郎氏の接近してくるのを根気よく待つ。作戦だった。これは、私の推理だが

HOTEL PRIMAVERA

毎度ありがとうございます。

御宿泊と御食事に
御婚礼の披露宴とお仕出しに
御家族連れの御食事に
御会食と御宴会に
日本料理とブラジル料理
毎本日はフェジョアータ
シネマ帰りの熟物料理
ピストス名物料理

プレシデンテ バルガス街
プリマヴェーラ
森川悠一

電話 九二番
CP. 六〇番



、いくら精神力の旺盛な寛郎氏でも毎日退屈には困ったであろう。一カ月前若く日本人の夜営内で終戦の音もきいて大あろうし、現在の日本の繁栄もきいて大いに心の動揺も覚えたであろうし、普通の人ならここで音を上げる処だが、寛郎氏は、自分は軍人であるから、上官の命令がなければ、任地は放棄できない。そして写真も撮らせた。それ故、ここ一カ月、さまざまな空想が胸中を走ったにちがいない。

もしやと思つてワカヤマ、ポイントを見望すると、目を疑うほど再び野営の天幕が見えた。二月中旬遣った鈴木青年とあつた。あの時迎えに来るとも何らの約束はしなかつたが、やはりあの時の写真が寛郎氏を確信するキメテとなつたのだと直感し、三月九日意を決して天幕に近づいた。そこにはやはり想像していた通り鈴木青年と、上宮谷口少佐が待っていた。このとき寛郎氏の胸中を去来したものは何であつたらうか。谷口少佐は、三十年前命を解した。谷口少佐は、三十年前命を解した。谷口少佐は、三十年前命を解した。谷口少佐は、三十年前命を解した。

死亡通知並に会葬御礼

三男、原野成一（二十六歳）儀、かねて病氣療養中の処、薬石の効なく、去る三月十四日聖市の病院にて長逝いたしました。敬って翌三月十五日の朝遺体をバストスに移し、夕方五時自宅出棺、バストス墓地に埋葬いたしました。

此の儀生前辱知の皆さんへ謹んで御報告申げます。

追って葬儀の節は、御多申おいとにもなく遠路御会下され、またその上に過分の香奠並びに花輪等を御惠供いただき、誠にありがたく厚く御礼申上げます。

実は一々御廻礼に御伺せねばなりませんが、取込申甚だ勝手乍ら略儀紙上を以って御礼の御挨拶申上げます。

一九七四年三月十六日

バストス中央第一区 父

- 母 原野辰美
- 長女 井上富士子
- 次女 西村とし子
- 夫 和夫
- 三女 中原けい子
- 夫 巧
- 長男 原野栄治
- 妻 かず子
- 次男 原野日出美
- 四男 〃 照美
- 四女 志田きみ子
- 夫 〃 修
- 中央第一区 様
- 五男 原野勝
- 親戚 杉誠三
- 諸角与吉
- バストス市役所 様
- バストス市会 様
- バストス南米本願寺 様
- バストス仏教婦人会 様
- バストス熊本県人会 様
- バストス能本県人会 様
- シパロラシア其の他協会葬者各位 様
- バストス御在住各位 様
- バストス生長の家誌友会 様
- 会葬者 御一同様

109

「今日は会議会議で、歯医者に行くひまもなかつたんだ。」「じゃあ私は知りませんよ。もう一階に寝るのは嫌だわ。お婆ちゃんだって可哀そうよ。お骨になってまで悩まされちゃたまらないわし。」「どんな気で、それをおろしたんだらう。」「食べてたみたいよ。」「……本当かい。」「……ええ。」「信利もさすがに色を失っていた。しばらく黙っていたが、やがて言った。」「墓地を買わないといけなかなあ。」「昭子は今の今、何を言うのかと落胆したが、このまま放っておけない。昨夜はパンを与えろと眠ったが、かといつて自分でそれをやるのはご免だと思つて思ひこんでいたから、信利に、何か茂造に食べ物を与えるように頼んだ。強い口調で、私は絶対に行きませんからと言つた。信利もようやく様子見しようという気になつたらしく、階下へ降りて行った。」「やがて。」「おい昭子、昭子、ちょっと来てくれ。親爺が何処にもいないぞ。玄關が開いてるんだ。」「信利が慌しく大声で叫び出した。」「昭子も驚いて駆け降りてみると、茂造の姿が何処にもない。玄關から飛出して

で、中に入つた痕跡がない。また青梅街道へ飛び出したのか……！信利もそれを思つたらしく、パツマ姿でサンダルをつっかけたまま駆け行ってしまつた。」「敏さん、敏。起きて頂だい。お婆ちゃんもまた飛出したのよ。」「昭子は二階へ駆け上り、息子を大声で呼び起しなげら、自分も着替えにかかつた。もう大学は合格確実と安心してから、夜中起すにも遠慮がない。」「うん。この前の方へ僕行ってみるよ。見つけたら電話するから、ママは家で待機してろよ。」「敏は頼もしく、こんなことを親に示指して自転車にのつて出て行った。」「三千分ほどして信利が息を切らして戻つてきた。道所を駆けまわつてみたが見つからないと言ふ。敏が自転で追跡したと言つた。」「そうか、ふうん」と、感心している。」「無事に見つかるといいんですけどね。お婆ちゃんか一人さりで飛出したのはこれが初めてだから。」「なに年寄りの足だ、そう遠くまで行けないさ。」「なんという暢気なことを言うのかと昭子は腹が立った。茂造は家の中でこそ動作が緩慢だけれども、一度外へ飛出した

御訪日なされるお方は

トヨコ・ツリズモを御利用下さい

三月二十九日(日航ジャンボ) 五月七日

六月十七日 (欧州廻り)八月・九月 才年度最終便

東洋国際旅行社

TOYO INTERNACIONAL TURISMO LTDA

皆様の御便宜を計り、一千ドル迄、三菱銀行より六カ月より二年迄の長期融通の御世話をいたします。

尚、東洋文化研究会々という社がありまして、飛行機便取扱い上の問題を起した由ですが、それは当社とは何ら関係はありません。

御訪ご希望の方は左記へ御相談下さい

代理店 宇佐美ホテル

ps

5

「箱のように入進する」ということは京子も体験して話したし、練馬の外れで野子と敏の二人がかりて取り押えたときのことでも詳しく話したというのに、信利の耳には素通りしていたというのだろうか。

「それには敏は自転車を追跡したんだらう。信利が階段上りかけたので、野子は金切り声をあげた。」

「あはた、寝るんですか。」

「ああ、明日は会社が忙しいんだ。」

「それに備えなければならぬというのだらう。信利は二階の寝室に入って、ぐぐまた眠ってしまった。野子は怒りに燃やした。ウーリーマンの妻として、ここで喧嘩を売って夫を不眠に追いこんではいけません。辛うじて踏み止まった。しかし、なんという無責任な男だらう。この真夜実の親が家を出て行方不明だというのに、平気で眠れるなんて、なんというおぞましい神経の持主だらう。やっぱり親と子で、茂造の血が確実に信利に流れている。年を取った信利はますます野子の顔も見わすれてしまうのだらう。彼もまた老練するのだ。きつと、心の中で思いつく限りの毒舌を夫に浴せかけながら、しかし野子は不安に震われてきた。野気がいいから寝巻で飛出しても風邪をひく心配はないようなもの、しかし敏があの連絡があまりにも遅すぎた。あの子小銭を持たずに出て行ってしまった。あんなことはないだらうか。」

「まったり立ったりしているところへ、ようやく敏から電話がかかったときは、もう辺りが白み始めていた。」

「ママ、お爺ちゃんは見付った？」

「いいえ、あなた何処にいるの。敏。」

「もうじき練馬区だよ。」

「まあ。」

「反対側の方へ行っただのかも知れないね。違う方向を歩いているのかもしれない。ママ、一〇番にかけた方がいいんじゃないのかなあ。」

「そうね、そうするわ。敏はすぐ帰って来っしやい。車に気をつけるのよ。」

「車は減多にいないよ。ものすくしい気持ちだぜ。空気もいいしね、この日は。」

「何を暢気なこと言ってるの。」

電話を切つてすぐ一〇番をまわした。生れて始めて警察へ電話をしているのだ。と思つた。たんに信利を起すべきだ。たと後悔したが、

「はい、一〇番です。」

「呼出し音にかわつて勢いのいい声が聞こえて来た。」

つづく 著者 有吉佐和子

御礼

御令嬢よし江様、此の度びの御結婚記念として、
「もろふた」を当会に御寄贈いただきました。ありがとうございました。
紙上を以つて厚く御礼申上げます。
一九七四年三月
ウニオン主婦人会
岩橋満雄様

御礼

金一封
過日御不幸のありました節御手伝い致しましたことに対し右の御寄附を頂きました。謹んで御礼申上げます。
グロリア主婦人会

水本彰様

求む

養鶏に経験のある方。
(三人以上働き手のある家族)
最高給を支払います。歩合又は月給、日給等は御相談致します。
○当方、イズビア、エスタソンより六百メートルの距離、毎日のお買物はイズビア組合、何処より安価。中学校は昼夜あり、乞御視察を。イズビア
藤田農場

御礼

金一封
右は、加藤義次郎様御不幸の節香返として御寄附下さいました。誠にありがとうございました。厚く御礼申上げます。
バストス連合仏教婦人会

加藤義高様

二十世紀の大国ブラジル

ブラジルに役立つ投資なら歓迎する

「ブラチニ商工相にきく」

「日本の企業進出がふえ、日本とブラジルの経済関係が深まってきた。これをどう思うか。」

「ブラジルと日本の経済関係で基本的なことは、資源、原材料など日本になじみのブラジルにあり、技術、資本などブラジルにないものが日本にあるというところだ。」

「ブラジルは、いま工業化をどんどん進めているが、ここはブラジルの工業製品を、日本が買うという努力をいただけでなく、最近の日本の資本技術投下がブラジル工業開発を進める形になっているのは喜ばしいことだと思つていよう。」

「日本の投資を歓迎しているというところか。」

「一般的にいえばどうだが、もちろん必要條件もある。それは二つの要素だ。ひとつは、その投資が技術を伴つていること。もうひとつは、ブラジルの輸出を伸ばすような投資だ。これがブラジルに対する投資のガイドライン（基準）になると思つてもうつてよい。これを考慮した投資がいち早くも歓迎する。」

「日本の企業進出の背景には、ブラジル経済の安定がある。年率五〇％を超えるインフレを退治した実績は、奇跡だと高く評価されているが、成功の秘訣は、奇跡はとにかく、インフレの率を低下させてきたのは、ブラジルぐらいたといふ自負はある。一部で犠牲はあったかもしれないが、強固な意志をもちて努力したことが最大の理由だ。」

教育レベルの引き上げは不可欠

「ブラジル経済の見通しはどうか。」

「ここ二十年の実質経済成長率は八〇％を見込んでいり、とくに工業部門について一・二—一・五％の成長率を見込んでいり、それと日本のように、教育レベルを上げることが経済発展に不可欠なので、それも進めたい。」

「一例としては、現在八十万人の大学生を二、三年後には百万人にする。」

「日本の政治家と同様に、あなたも数字好きですね。」

「私ら経済関係はテクノクラートと言われ、数字をもてあそんで暮らしているように思われたいるので、じつは困っているんだ（笑）。」

「もちろん政治の本当の目的は、国民の生活水準を引き上げることです。数字はたんなる尺度に過ぎませんよ。」

「日本では、あなたのような若い指導者が生れなごとはあり得ない。どうしてですか。あなたは今どんな生活を送っていますか。」

「私が大臣をじているのは、ブラジルが若い国だからです（笑）。くる日もくると日も忙しいですよ（笑）。って、メモ帳をとって出す）かと言え、さようは、こんなスケジュールです。午前八時に家を出て八時十五分に役所にきました。午前中に三つの会議がありました。」

「正午過ぎ食事。午後一時半に戻って二時からサンパウロの経済学者と会議、そして三時半から羊毛工業界のおえり方、四時から三菱商事の南米総支配人、四時半にはミナス州の代議士、五時から米國大使館の経済担当、六時半から商工次官と懇談します。」

「そして七時半から、あすサンパウロでオーブンする合板メーカーの工場視察についでの日程打ち合せです。」

「忙しすぎらって、私もそう思います（笑）（笑）。」

朝日特派記者
栗田房徳

CENTRO INTERNACIONAL DE CULTURA BRASILEIRA

海洋博センター

Rua Bayão do Rio Branco Nº 223, YOSHITUGU GOTO Bastos

海洋博センター

開設御しらせ

PT

今度左記の住所に於て訪日なさるお方に簡易な方法にてお世話するようになりますので、お気軽に御利用下さい。

尚、旅費、お小遣等は御心配なく当連絡所に御出で下さい。詳細説明し、皆様の御要望に応えます。

連絡所

バストス市

ムパロンドリオフランコ

二二二二

後藤義次

バストスの気温と降雨

1974年2月分

| 項目 | 気温 °C | 湿度計 °C | 湿度 % | 最高 気温 | 最低 気温 | 降水量 mm | 天候 | 風速 |
|----|-------|--------|-------|-------|-------|--------|----|----|
| 1 | 22.0 | 22.0 | 100 | 28.0 | 19.0 | 33.0 | E | 10 |
| 2 | 27.0 | 25.0 | 82 | 28.0 | 20.0 | 13.5 | N | 5 |
| 3 | 27.0 | 25.0 | 82 | 29.0 | 20.0 | 5.2 | N | 5 |
| 4 | 30.0 | 29.0 | 91 | 31.5 | 21.0 | 0.1 | N | 3 |
| 5 | 28.0 | 25.0 | 74 | 33.0 | 21.0 | | N | 6 |
| 6 | 30.0 | 26.0 | 68 | 34.0 | 21.0 | | N | 4 |
| 7 | 31.0 | 27.0 | 68 | 35.0 | 21.0 | | E | 2 |
| 8 | 28.0 | 23.0 | 73 | 34.0 | 18.0 | 37.2 | E | |
| 9 | 30.0 | 26.0 | 68 | 32.0 | 20.0 | | N | |
| 10 | 29.0 | 26.0 | 82 | 33.0 | 20.0 | | E | |
| 11 | 28.0 | 25.0 | 74 | 33.5 | 20.0 | 3.0 | N | |
| 12 | 30.0 | 26.0 | 68 | 32.0 | 21.0 | | E | 2 |
| 13 | 33.0 | 28.0 | 63 | 33.5 | 22.0 | | E | 2 |
| 14 | 31.0 | 28.0 | 75 | 34.0 | 22.0 | | W | 5 |
| 15 | 28.0 | 25.0 | 74 | 33.0 | 22.0 | 3.1 | N | 3 |
| 16 | 30.0 | 26.0 | 63 | 33.0 | 22.0 | | E | 5 |
| 17 | 30.0 | 27.0 | 75 | 33.0 | 20.0 | 5.3 | N | 4 |
| 18 | 29.0 | 26.0 | 75 | 33.0 | 20.0 | | W | 2 |
| 19 | 31.0 | 28.0 | 75 | 32.0 | 18.0 | | W | 2 |
| 20 | 33.0 | 28.0 | 63 | 33.5 | 20.0 | | E | 2 |
| 21 | 34.0 | 28.0 | 57 | 36.0 | 22.0 | | N | 5 |
| 22 | 31.0 | 26.0 | 62 | 34.0 | 19.0 | 6.5 | N | 2 |
| 23 | 30.0 | 25.0 | 61 | 34.0 | 20.0 | | S | |
| 24 | 30.0 | 27.0 | 75 | 34.0 | 20.5 | 12.0 | W | 5 |
| 25 | 30.0 | 26.0 | 69 | 33.0 | 22.0 | | W | 3 |
| 26 | 29.0 | 24.0 | 60 | 32.5 | 20.0 | | E | |
| 27 | 31.0 | 25.0 | 56 | 34.0 | 19.5 | | E | |
| 28 | 31.0 | 25.0 | 56 | 34.0 | 19.0 | | E | |
| 合計 | 831.0 | 729.0 | 200.9 | 919.5 | 570.0 | 118.9 | | |
| 平均 | 29.6 | 26.0 | 71 | 32.5 | 20.3 | 4.2 | | |

落第は先生の責任。慰謝料を払え

戦争に敗けたのは軍人の責任、インフレーションも石油の不足も政治家の責任、雨が降り続いても政治が悪いと言いかねない戦後派の日本人。北海道で女学生が「落第したのには先生の責任だから、慰謝料を払え」と学校と先生を訴える、という訴訟事件があったさうだ。

この女学生は、一年から二年になるとき、ある科目で及第点をとれなかったために、落第させられたさうだ。これが世の常の生徒なら、「試験ができなかったのだから」とあきらめるところだが、この女学生と両親はさうでなかった。コペルニクス的転回とでもいうべき発想をした。つまり学校の先生は、生徒に知識を解説させる義務を負っている。だから生徒が落第点をとったのは、生徒が悪いのではなく、先生が生徒に理解させる努力を怠ったせいだ。というのだ。

御者である先生（ラクダ乗りの人）はラクダを（生徒）を知識の泉まで連れて行くことはできる。しかし、その泉の水を飲むのはラクダ自身の意欲の問題で、先生には無理にのませることはできない。というのが従来の考え方であった。ところが、この親子は、ラクダに水をのま

せるところまで先生の責任、義務であると主張しているのである。

もし、この主張が通るなら、だれも先生などやめてしまおうであろう。なぜなら、慰謝料欲しさに落第点をとろうとする生徒がたくさん現れるにちがいないが、先生はそれを防ぐ手段はなく、破産するほかはないからである。

むろんこの女学生が、なにか先生との間の感情のもつれから、ひとりだけよく教えてもらえなかった。というのであれば、まったく私的な問題であり、はたで論ずべきことではなからう。

が、さうでないとする、私たちはこのあたりに見る思いがする。

すなわちこれは、悪いことはみんな社会のせい、個人は一切の責はないとする風潮が、極端な形で具体化したものである。この論法でゆくと、殺人罪も個人

の罪でないから、犯人は無罪である。ばかりでなく、人殺しをした精神的苦痛に對して、社会は慰謝料を払うべきだ、といふことになるのではないか。

田中首相を罵る人は、自分が政治を建直す自信があつて言うのであろうか。戦争に敗れた軍人は同胞でないと言ふのが

人の考えが判らぬ。完

「あんな、二十三歳ね。あと二回チャンスがあるわ。うらやましい！」
「チャンスって、何なの？」
「女は、二十三、二十五、二十七が結婚ときよ。これを逃すと、あんなもハイミスね。」

燃焼性住宅

「なにを買いだめしてきたんだ？」
「紙と灯油は、これで安心よ。」
「地震がきたら、どうする？ その分だけ、よけいに燃えるんだぞ。」

転勤不能

「スチューワートレス、バリ転勤拒否か？」
「おれの北海道転勤とダンチな。」
「でも、おまえがうらやましいよ。」
「なにいつてんの、根室だぞ。」
「おれの会社支店がないんだ。」

特別手当

「ママと家庭教師。」
「先生、いい体格してありますこと。」
「スポーツは万能です。」
「受験も体力ですから、そっちの方もお願いしますわ。」
「では、スペインやル代つけてください。」

出戻り息子

「息子が離婚して帰って来んですの。子供を三人も連れてですよ。」
「娘さんじゃなくて、息子さんがですか。昔と逆ですね。」
「出戻りの子連れ息子をかかえて、これからどうしたらいいんでしょう。」

二重外交

「あんな、課長さんと切れたの？」
「続いてるわよ。」
「専務さんとも遊んでるんでしょ？」
「なぜ石油ピンチかわかる？ アラブとりに頼ってるからなのよ。」

灯油ベビィ

「今年は暖冬じゃなさそうだね。」
「灯油もあまり使えないし。」
「早く寝るほか方法がないよ。」
「また、ベビィブームになるぜ。」

ケチくらべ

「うちリヤ、トイレの紙、子供すが、大人二の倍に決めたのよ。」
「下痢止めの買いだめしたしとわいるぜ。」
「紙をケチッても、水洗代を節約しな。」

「トイレ貸してね」という戦術が一掃。」

二階級特進

「お嬢さん。」
「もう違わわ。」
「お母さん。」
「違うわよ。」
「まさか？ おバアさん。」
「ハイヨ、アタシ、孫のいるツイさんと結婚したの。」

条件反射

「スパーマーケットの入口で、田地の主婦ふたりが。」
「これ何をかう行列ですか。」
「なんでしょうね。」
「だって、あなた並んでるじゃないの。」
「みんなが並んでるから、並ばなきゃ損だと思ってる。」

ノイローゼ

「あの食堂、パンバーク百五十円なんだ。安くて良心的だよ。」
「この物価高にね。あんなり安いと心配だなあ。イヌか、ネコの肉でも使ってるんじゃないの。」

御礼

前週(三月十八日)会葬御礼を出しました。 中央区様、P.L.教団様、バスターズ婦人会様、の三団体が洩れていました。御説ひ旁々御礼追加致します。

加藤 義高

御礼

前々週(三月十一日)会葬御礼を出しましたところ、ウニオン区青年団様の団体名が洩れて居りましたので御説ひかたがた追加御礼申し上げます。

大野 悟 朗

Arquivo de Cine Pastos

三月二十四日(日)九時半 二十五日(月)八時
 大映 天道館の鷲 本郷功次郎 山下潤一郎 阿井美千代
 天然色 高田美和 威健三郎 坪内ミキ子

三月二十六日(火)二十七日(水)両夜とも八時
 松竹 馬鹿ぢやあし船 竹駒無我 松山英太郎
 総天 都はるみ 安達明
 然色 香山美子 勝呂誉

三月二十九日(金)八時三十分 三十日(土)九時半
 東宝 水戸黄門 森繁久弥 坂上二郎
 総天 宝田明 三木のり平
 然色 高島忠夫 池内淳子

石門主従トリオの出現ノ事件続発ノおなじみ副将軍おしのび旅行ノ

三月三十一日(日)九時半 四月一日(月)八時
 東映 俺たちに慕はない 千葉真一 大堀早苗
 総天 内田良平 人見明 水島道太郎
 然色 夏八木勲 大泉 晃

四月三日(火)三日(水)両夜とも八時
 東宝 光栄への反逆 CAMPENAO
 然色 黒沢年男 高橋紀子
 総天 松原智恵子 岡田英次
 四月五日(金)八時 六日(土)九時半
 松竹 誰かさんと 誰かさんと ザ・ドリフターズ 伴本工事 倍賞美津子
 然色 誰かさんと 誰かさんと いかりや長介 加藤 茶
 高柳 岩下志麻

ソルトのために俺は何人殺したのだノリンクを捨てた不敗の王者が雪の原野に求めた光栄と恋ノ

開店お知らせ

最新の技術で必ず皆様の御気に召すよう
 撮影致します

FOTO NOZAWA



小供さんのお誕生、カーザメント記念には
 特別のサービスいたします

ルア・デイスデペンブ口五五五(ファルマシマのとなり)

野沢写真真館

電話 三三八八番

来る三月三十一日...